

インターネットで、3要素動詞の動作者名詞の複数形を調べる
例えば、make(r)(s) fun(ner)(s) of(er)(s)
Consulting the Internet for the Plural Actor Nouns
of Three-part Verbs:
e.g., make(r)(s) fun(ner)(s) of(er)(s)

山部 順治

Junji YAMABE

キーワード：インターネット・コーパス、形態音韻論、非標準英語

keywords: internet corpus, morpho-phonology, non-standard English

Abstract

This article deals with such actor nouns based on three-part verbs, as *maker funner ofer*, *putter up with*, and also with their plurals, such as *maker funner ofers*, *putter up withs*. These words exhibit wide variation in form, as can be observed on the internet. The extension of the variation and the frequency of variant forms are documented and explained in cognitive-linguistic terms.

概略

本稿は、題材として、3要素からなる動詞（例、make fun of, put up with）をベースにして出来る動作者名詞（例、maker funner ofer, putter up with）さらにその複数形（例、maker funner ofers, putter up withs）を取り上げる。これらの語の形については、大幅な変異がインターネット上で観察される。変異の範囲と各変異形の頻度を記録し、認知言語学的な概念によって説明する。

本稿の構成は、次のようである。第1節で、本稿の背景をなす情報を示した後、第2節で、2あるいは3要素からなる動作者名詞、第3節で、その複数形について論ずる。第4節でまとめる。

1. 本稿の背景

1.1 では、題材に関連する既存記述をまとめ、1.2 では、特有な用語と、資料の概略を説明し、1.3 では本論全体での観察を先取りして概観する。

1.1 題材に関連する既存の記述

言語学の先行研究において取り上げられている動作者名詞形は、2 要素からなるもの(例、*picker upper*, *passer by*)だ。概説書で言及されており(Dixon 2005:345-346; Blevins 2006:529)論文の論題にもなっている(Ackema and Neeleman 2004:159-164; 2005:307-311; Chapman 2008; Cappelle *to appear*)。一方、3 要素からなる動作者名詞形については、論考は見当たらない。

3 要素の動作者名詞形は、(1)のように、言語学会の外、インターネット掲示板で話題に上ることがある。

- (1) a. Clearly, this [the pattern "verb-*er upper*" of e.g., *washer upper*, *cheerer upper*] is not conventional English - colloquial or slang at best. Similar situations arise with e.g. *maker-outer*, *cooler-downer* and theoretically with all phrasal verbs however ugly they sound (*emailer-backer sniffer-arounder? puller-togetherer? comer-upper-wither? getter-ridder-offer?*) There's a few googles for all these terms, 【文の以下略】

【掲示板】

- b. 【A:】Why yes, I _am_ a *gang-upper oner* in appropriate context. And I like making up words.

【B:】*ganger upon* (or *ganger up on*)

it's like attorneys general - you mess with the first word in the multi-word title.

【掲示板】A は例を使用、B がそれに言及して添削

(1)のやりとりから、3 要素の動作者名詞について、次の事柄が読み取れる。(a)から；文体的に威信が極めて低い；文法的に適格と見なさない人もいる (sound ugly; ?印)。(b)から；即興的である (making up words)；その形に関して話者間で変異 (ゆれ) がある。

1.2 用語、資料

用語 本稿の題材は3種類の動詞形(2)の各段)である。3者の記号・名前・例を記す。

(2)	V	ベース動詞(動詞原形)	teach	make fun of
	V - ER	動作者名詞	teacher	maker funner ofer
	V - ER - S	動作者名詞の複数形	teachers	maker funner offers

V, ER, S は、いずれも形態素(morpheme)だ。意味的に、ERは動作主名詞性、Sは複数性を表す。

各動詞形で3要素からなるもの(例えば、(2)最右列)については、語頭から第1, 2, 3要素を、それぞれ“ ”と記す。

本稿では、言語を文字媒体で捉える。そこで、文字を音声になぞらえ、音声研究の用語・記号を転用する。ある形態素の実現形として2つ以上異なる綴り方があるとき、それらの綴り方の一つ一つを、“異形態”(allomorph)と呼び、スラッシュ / / で囲んで表記する。V - ERが1語の場合は、(3)のように、ERに異形態が3つ /er/, /or/, /ar/ がある。ある場合(b')は、2つの異形態の間で変異(ゆれ)が(インターネット上で)観察される。(なお、音声上の対応物は同一である /ə /。)

(3)	ERの /異形態/	各/異形態/が適用される ベース動詞 V	V - ERの例
a.	/er/	大多数の動詞	teacher
b.	/or/	act, connect, operate, protect, survive, . . .	actor
b'.	/or/ ~ /er/	advise, reject, expect, insist, condemn, . . .	advisor ~ adviser
c.	/ar/	beg, lie ‘嘘をつく’, burgle, peddle, . . .	beggar

資料 本稿の資料源は、インターネット上のテキストである。調査は、2009年7~9月、および補足的にその後11月まで、実施した。

本稿でいう例文の“件数”とは、(4)に示す3種がある。これらを設問ごとに使い分ける。

(4) 3種の“件数”

A	検出	検索エンジンが返す数。非該当例が混じる。
B	標本選別で該当	Aの一部を標本として点検。非該当例を除外。 B = A 件数 × 標本における該当例の件数割合 (Lieberman & Pullum 2006: 246-251, 荻野 2006)。
C	個々選別で該当	Aの全例を点検。同一テキストの重複を除外。

3種の件数の値は、同一コーパスを対象にすれば、 $A \geq B \geq C$ となる。最も正確なのはCだが、Aの値が大きくなる設問では、Bを提示する。ときに、簡便に済ますため、Aを提

示する。

利用した検索サイトは、A と B に関してはヤフー (UK & Ireland)、C に関してはグーグルである。

B の標本には、検索結果 (10 件ずつ表示) の第 2, 11, 21, 31, 41 ページの計 50 件を採った (もしそこまで検出例がなければ途中の 5 ページ)。B において同一テキストの重複は、検出結果の同一ページ上に示された場合のみ、除外した。

B と C での選別に当たっては、引用されている例 (例、(1a)、(1b)【B 氏】) は除外する。この理由で除外された例の多くは、辞書項目だった。

例の提示では、次の字体・記号を原文に加筆する。また、原文での改行を適宜ツメる。

太字	maker funner ofers	ER または S の実現部分
斜体字	coffee maker	V - ER
下線	<u>coffee maker</u>	V - ER を含む複合語
破線	he doesn't <u>make coffee</u>	当座の論旨と関連のある個所

なお、アポストロフィー (')、ハイフン (-) に関しては、原文のままである。

1.3 概観


本稿で扱う (形態論で言う) 動詞形とその (形態音韻論で言う) 異形態を一覧にすると、次ページのようなものである。Langacker 1987, Lakoff 1987 に代表される認知言語学的視点になり、認知的単位 (schema) とそれらの間のつながりを想定する。この種の視点に立つ先行研究の大方では、語や構文の多義の体系を取り上げる (意味に関する) のに対して、本稿は、形態的特徴の異形態の体系を扱う (形に関する)。

ボックスは認知的単位を示す。各異形態がそれである。矢印は、拡張 (拡張元 拡張先) の関係を示す。異形態どうしは部分的変形ないし部分的添加によってつながっている。例えば、パターン を元にして、①へと、②へと、③へと、拡張できる。また、③は、 を拡張したものであり、同時に、(II)を拡張したのものである。(f.の各パターンは、eのどれかからの拡張形であり、また d のどれかからの拡張形でもある。)

線の太さと線種の相違は「実線 (太い > 細い) > 破線」は、次のように相関させてある。「ボックスの線に関して: パターンの優勢さ。」本稿の本論では、例の件数が多いパターンを優勢だと見なす。

「矢印に関して: パターン間のつながりの密接さ」。拡張元が与えられたとき拡張先が思いつかれる容易さ。V - ER のような可算名詞について単数形がある場合にその複数形がある

ことは必ず予期されることに応じて、表で上 下向きの矢印は一概に太い。一方、1要素の V - ER があっても2要素の V - ER があるとは限らないから、表で左上↘右下向きの矢印は一概に細い。劣勢なパターンからの拡張は、(様々な太さ・線種の)薄色で表す。

破線の円弧 () で区切られる3つの領域 (a,b+(i)(I) | c,d | e,f) は、確立度に関する格差を、概略的に示す。社会的には方言差や文体差であり、認知的には長期記憶の一部であるかその場限りかの差だ。標準的英語においては、a,b+(i)(I)が可能。許容範囲の広い方言においては、あるいは文体が口語的なら、a - dが可能。許容範囲がさらに広い方言においては、あるいは文体をさらに低めれば、a - fまで可能である。3領域の地位の格差は、インターネット上では例の件数差として見て取れる。各領域について、1つのベース動詞 V の1つのパターンする件数の上位に目を付けると、桁数が異なる。ヤフーによれば、a,b+(i),(I)では百万超 (teacher, player が億超 ; 2要素では runner up, passer by が百万超)、c,d では数千 ~ 数百 (ただし、picker upper 数十万が孤立して多い)、e,f では数十 (comer upper wither) ~ 一桁である。

(5)

a. 1 要素の V - ER

er

er-s

b. 1 要素の V - ER - S

(i)	(ii)	(iii)
er	er	er er

c. 2 要素の V - ER
(2 . 1)

d. 2 要素の V - ER - S
(3 . 1)

(I)	(II)	(III)	(IV)
er-s	er s	er-s	er er-s

e. 3 要素の V - ER
(2 . 2)

er	er	er	er er	er er	er er	er er	er er

f. 3 要素の V - ER - S (3 . 3)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
	er-s	er s	er s	er-s	er s	er-s	er er-s	er er s	er er-s	er er-s	er er er-s

2. V - ER , V が 2 要素以上の場合

V - ER で 2 要素以上からなるものを扱う。2 . 1 では 2 要素、2 . 2 では 3 要素の場合を扱う。

2.1 V - ER , 2 要素からなる

V - ER で 2 要素からなるものにおいては、ER は 3 つの異形態の間でゆれる。(6)のようだ。

(6)	ER	ベース動詞 V	V - ER
	/ er /	pick up, check out, knock down,	picker up
	~/ er /	run up, pass by, . .	~ picker upper
	~/ er er /		~ picker upper

形態素 ER は、(6)では、(ベース動詞に膠着する連鎖でなく)ベース動詞全体にかぶさるパターンである。例えば、/ pick up / + / er er / / picker upper /。異形態どうしの相違は、(3)では、どの文字が現れるかにあったのに対し、(6)では、どこにどの文字が現れるかにある。本稿で問題になる区別は、このような、パターンの区別である。

2 要素の V - ER の 3 パターンは、それぞれ、1 要素のパターン / er / を拡張すべく、同パターンに解釈を施したものだ。すなわち、/ er / の付いている個所を次のように特徴付けたものだ。(i) / er / では主要部、(ii) / er / では末尾、(iii) / er er / では主要部と末尾。(Ackema and Neeleman 2004:140; 2005:308-311 の制約 (i)Input Correspondence, (ii)Linear Correspondence; Chapman 2008:278-279)

先行研究による観察 3 つの異形態パターンの勢力は、研究文献によれば、概略、次のようだ (Chapman 2008; Cappelle to appear)。3 者のうち現在最も生産的 (productive)なのは、/ er er / である。このパターンは、ベース動詞として句動詞 (phrasal verbs) の種々に適用される：最もタイプ頻度 (type frequency) が高い。/ er / は、runner up, passer by, looker on など、限られた数の V - ER において好まれる。この種の V - ER の多くは、基本単語であり、頻用される：結果、パターン / er er / はトークン頻度 (token frequency) が比較的高い。/ er / は、タイプ頻度、トークン頻度ともに、他 2 パターンに劣る。

パターン / er er / の適用は、第 2 要素の語が何であるかに関して、限定されている。Dixon (2005)によれば about, across, away, by, round には不可能であり、Chapman (2008)によれば over は実例が観察されない。

インターネット上の状況 上述の状況の一端を、インターネット検索による調査で確認

しよう。表(7)に、V - ER の3パターンの優劣を示す。件数は標本選別(B)(4)による。件数が比較的大きかったV - ERをあげる。V - ERとの対比のため、V - ABLEの様子を最下段に示す。“件数比”とは、パターン/ er /と/ er /それぞれの、/ er er /に対する件数比である。

観察された変異には、3パターンの区別(6)に加え、さらに細かい相違もあった。例えば、/up/ + /er/ (upper) に対しては、文字表記 upper, uper up-er。本稿の論述では、これらは区別しない。したがって、“件数”もこれらについて一括(=これら夫々の件数を合算)したものだ。(これらの文字表記は、入れ替えても綴りの誤りだと断じられるほどではない。この点で、音声でいう異音(allophones)になぞらえることができる。)

(7) 2要素のV - ER 3パターンの頻度

V \ - ER	er φ		φ er		er er
	件数比	件数	件数比	件数	
run up	68882	38,600,00	*	*	560
pass by	1304	2,848,000	.11	230	2,184
look on	581	28,160	.014	1	48
dine out	45	8,690	.10	19	195
read aloud	27	454	12	205	17
bring about	16	152	1.3	12	9
bring up	1.6	509	*	*	326
take away	1.2	510	.81	337	417
throw away	1.2	329	1.1	295	275
dole out	.73	68	.044	4	93
look around	.23	8	.50	18	37
take out	.16	342	.083	173	2,085
sit down	.08	28	5.1	1,684	332
knock down	.07	32	.070	32	463
pick up	.03	17,820	.020	10,292	520,928
cheer up	.011	108	.050	494	9,953

V \ - ABLE	able φ	φ able	able able		
pick up	.53	24	78	3,467	45

*は、多数の検出例の中に該当例を確認できなかった。

概して、パターン/ er /を好むV - ER(表(7)上方の段)は件数が大きく、/ er er /を好むV - ER(下方の段)は件数の大小が混じっていた。表(7)に掲載のない種々一般のV - ERは、表中のものより件数が小さく、パターン/ er er /の例が最も多く見かけられた。なお、V - ABLE(最下段)は、どのベース動詞のV - ERとも異なり、/ able /が突出

して多く、/able /, /able able /はわずかだった。

言語学者による観察(上述)と異なり、インターネット上では、パターン/er er /は、第2要素 away, by, around によって排除されるまではいかない。over にもまとまった件数が見られた(表中にないが、/run over /+/er er / 103 件。なお、/run over /+/er / の例は、非該当例の山に埋もれて見つけれなかった)。概して、インターネット上は、言語学者の周囲より、パターン/er er /の進出が進んでいるようだ。

高頻度のパターン/er /の V - ER (例、runner up ‘次点者、上位者’、passer by ‘通行人、過ぎる人’)は、ベース動詞 V (例、run up, pass by) の多義のうち特定の意味だけに対応する。この種の V - ER は、ベースと派生語の意味的対応が規則的でないという点で、語彙項目化 (lexicalization) の兆候を呈す。一方、パターン/er er /の V - ER は、V の多義一般に対応する。例えば、(8)のように、ベース動詞 V の意味が‘駆け上る’、‘過ごす(他動詞)’であれば、V - ER はパターン/er er /で現れる。

(8) a. 【質問者:】 Why do people always seem to run up stairs? 【略】

【回答者:】 just thought of this, i am a stair runner upper (don't know what the scientific name is for it) and i think it may be related to 【...文の以下略】.

【掲示板】 /run up / + /er er /

b. Why this forum is a nothing but a useless time passer-byer

【掲示板、スレッドタイトル】

‘時間を過ごすための手段、暇つぶし’ /pass by / + /er er /

なお、表(7)の調査結果では、(8)のような“その他”の意味の例が混入していたが、語彙項目化に関わった意味に対して件数割合が数ケタの比で小さく、統計上は無視できる。

2.2 V - ER , 3要素からなる

3要素の場合は、/er/が付く個所の組み合わせると、(9)のように、理屈上、7つの異形態パターンが想定できる。各段に1・2・3か所に/er/があるものを並べ、7パターンに番号 ~ を振る。

- (9) / er / / er / / er /
 / er er / / er er / / er er /
 / er er er /

2.2 の以下では、7つの異形態パターンからなる変異について、インターネット上の事実観察を提示し、説明を行う。2.1.1 は変異の広がり、2.1.2 では偏りに関する。

2.2.1 変異の広がり

実際にも、(9)の7パターン全てがインターネット上で観察できた。(10)のように、come up with - ER については、7パターンが全て揃って見つかった。

- (10) a. well, i'm a film-maker not a musician or name *comer-up-with*.
 【掲示板】 / er /
- b. Well I came up with the title for A Spy For A Spy and have been officially named "the official title *come upper with*" In our own words.
 【掲示板】 / er /
- c. I declare Leet the worst idea-*come-up-with-er* ever.
 【掲示板】 Leet : 掲示板参加者の名前 / er /
- d. 【A:】 You are officially the most awesome name-*comer-upper-with* ever!
 【B:】 You are the best icon maker and I am the best name-*comer-upper-with* ever 😊
 【掲示板】 / er er /
- e. Is drug-name-*comer-up-with-er* a job? Because I think I'd be good at it.
 【掲示板、薬の名前】 er er /
- f. Andrew: Offical Quote *Come Upper Wither*.
 【グループメンバー紹介】 / er er /
- g. I wish I didn't have to reveal my sources, so you'd all think I was a GENIUS recipe *comer-upper-wither*. 【日記、料理研究家】 / er er er /

検索文字列に対して返される検出一覧においては、たいてい、該当例(3要素のV-ER)より非該当例(それ以外)の方が多かった。該当例を選び出す際は、次の点に留意した。

(i) 3要素からなる検索文字列が、一個の構成素と一致していなければならない。例えば、(11a)左列の表現は、V-ER が(検索文字列をなす3語に対して)“小さすぎる”ためふる

(12) 3要素の V - ER 7パターンの頻度 (数字は件数)

			<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;"> <div style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> - ER </div>							計	
			er	φ	φ	er	er	φ	er		
			φ	er	φ	er	φ	er	er		
			φ	φ	er	φ	er	er	er		
I	come	up	with	5	2	9	35	22	1	49	123
	keep	up	with				3	5		8	16
	put	up	with	4		4	14	9		13	44
	break	up	with			2	1			1	4
	hang	out	with	1	2		7	2		10	22
	check	up	on	2	1		1			7	11
	sneak	up	on	1				1		4	6
	hang	up	on			1	1			8	10
	gang	up	on						1	1	2
	take	out	on							3	3
	look	down	upon	1		3	1	1		1	7
	look	out	for	1		2	5	1		2	11
	watc	out	for			1	3				4
	stick	up	for	1			1	3		1	6
	stand	up	for			1	1			1	3
	look	up	to	1			6	2		2	11
	suck	up	to	1						2	3
	talk	down	to			1	1			1	3
do	away	with	3				3			6	
II	hang	on	to				1	1			2
	hold	on	to				2	2		1	5
	get	out	of	1		2	3	1		2	9
	jump	out	of	3		1	3	1		2	10
	drink	out	of				1			3	4
	sit	in front	of					2		1	3
	stay	away	from			3				1	4
	run	away	from	6		5		14		1	26
get	along	with			2		1	1		4	
III	get	back	to					1		1	2
	get	back	on			1		1			2
	log	back	in			1		2			3
	put	back	on			4		18		5	27
	put	back	in			1		16		4	21
	bring	back	up	1				3		2	6
bring	back	to life	4		1		15		4	24	
IV	read	out	loud	24		16		26		1	67
V	get	rid	of	5	8	14	14	14	31	39	125
	make	fun	of	3		8	4	5	10	19	49
	take	care	of	11		8	18	63	2	56	158
	take	advanta	of	1	1		1	4	2	1	10
	keep	track	of				13		2	10	25
計			80	14	91	140	239	50	267	881	
										計	

検索文字列には、音声でいう“異音”になぞらえられる文字上の変異も組み込んだ(2.1)。

例えば、come up with - ER のパターン /er er /に対して、検索文字列「comer upper with」「comer uper with」「comer up er with」「com er up er with」「come er up er with」などを使用。検索文字列に組み込まなかつた表記には、次の(i) - (vi)がある。(i) 所有格「's」。(ii) /er/の、繰り返し形 erer(したがって、例「getter ridderer ofer」は算入されない)。(iii) comeの、母音字がoでないもの(例、「cummer」「commer」)。(iv) up on に対する一語綴り(例、「upon」「uponner」)。(v) on to に対する一語綴り(例、「onto」「ontoer」)。(vi) of として、ov, off(例、「ov」「ov er」「off」「offer(例(1a))」)。実際には、(i) - (iv),(vi)については、そうでない表記と比較して例が格段に少なかったか、または全くなかった。

解釈による拡張 3要素の V - ER の7パターン間の偏り方を説明すべく、次のように想定する。

- 3要素用の各パターンは、2要素用パターン(2.1)のあるものからの拡張的事例である。拡張は2要素用のパターンを解釈することによる。
- 2要素の各パターンは、定着している(=長期記憶の一部となっている)。一方、3要素のパターンは、その場限りである。

解釈の詳細は、次のようだ。3要素の優勢なパターンは、(1位から順に) /er er er /、 /er er /、 /er er / だった。3者は、2要素の最も優勢なパターン /er er /を、3通りに解釈した結果だ。すなわち、/er/の付いている個所を次のように特徴付けたものだ。では(i)全ての要素、では(ii)主要部と末尾、では(iii)主要部と一つの非主要部。上記3パターンの頻度の大小は、3解釈の採りやすさの差に由来する、と見なせる。(より正確には、は(ii)に重ねて(iii)によっても支持される。)

同一の現象 /er er /に対して複数の解釈(i)(ii)(iii) すなわち、複数の文法分析が生じている。それらは社会内で共存しており、おそらく一人の話者にとっても共存している。文法分析は必ずしも唯一に確定しないのである(Tuggy 2005:247-248; 257-258; Langacker 1987)。

劣勢なパターンは、(最下位から順に) / er /、 / er er / だった。両者は、2要素の劣勢なパターン / er / を解釈して、/er/が付いている個所を次のように特徴付けたものだ。2番目の要素、非主要部。これら解釈はいずれも、ひねくれている。というのは、パターン / er / で /er/が付いている個所は、末尾だと特徴付けるのが自然だからだ(2.1)。と が稀なのは、まず、拡張元のパターンが劣勢で、その上、拡張経路の解釈がひねくれているからなのである。

ベース動詞の種類 表(12)を、ベース動詞 V を5類(表(12)で点線区切りで表示)にま

とめると、表(13)になる。類別の指標は、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ の品詞と、ベース動詞の意味的構成。ベース動詞の意味的構成に関して、II・III・IV 類では、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ 部分が意味的に固まりをなしている（ $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ ）。例えば、III 類では、(back)と $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ が一緒に一つの意味役割（移動の経路）を担っている：put back on ‘付け直す’では、back ‘以前あった・いた場所へ’と、on ‘表面へ’。これら3類は、この分2要素の状況に近づく。これに対し、I類とV類では、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ の固まりは明確には見て取れない。

(13) 3要素の V - ER 7パターンの頻度 ベース動詞の類ごと（数字は%）

											計(件)
I	v.	adv.	prep.	7.1	1.7	8.1	27.1	16.6	.7	38.6	295
II	v.	adv. $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$	prep.	14.9		19.4	14.9	32.8	1.5	16.4	67
III	v.	back	adv.	5.9		9.4		65.9		18.8	85
IV	read out		loud	35.8		23.9		38.8		1.5	67
V	v.	n./adj.	of	5.4	2.5	8.2	13.6	23.4	12.8	34.1	367
合算				9.0	1.5	10.3	14.3	26.7	5.2	29.1	881

各動詞類におけるパターンの偏り方は、ベース動詞の意味的構成と、一定の相関が認められる。成り立つ対応関係で、主要なものは、『/er/は、普通は、意味的な切れ目に現れる = 意味的な固まりの内部には現れない。』である。（この対応関係が、どのような文法的仕組みに由来するかは、本稿では問題にしない。）

パターン $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は、全類の合算では少なくないが、III 類と IV 類では全く見られなかった。両類においては、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ 部分が意味的な固まりをなしている（上述）。（ただし、II 類のうち、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ が on to, out of である動詞については、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ の例が少なくはない。この事実は例外として残る。これらの動詞についての事実観察は、2.3。）

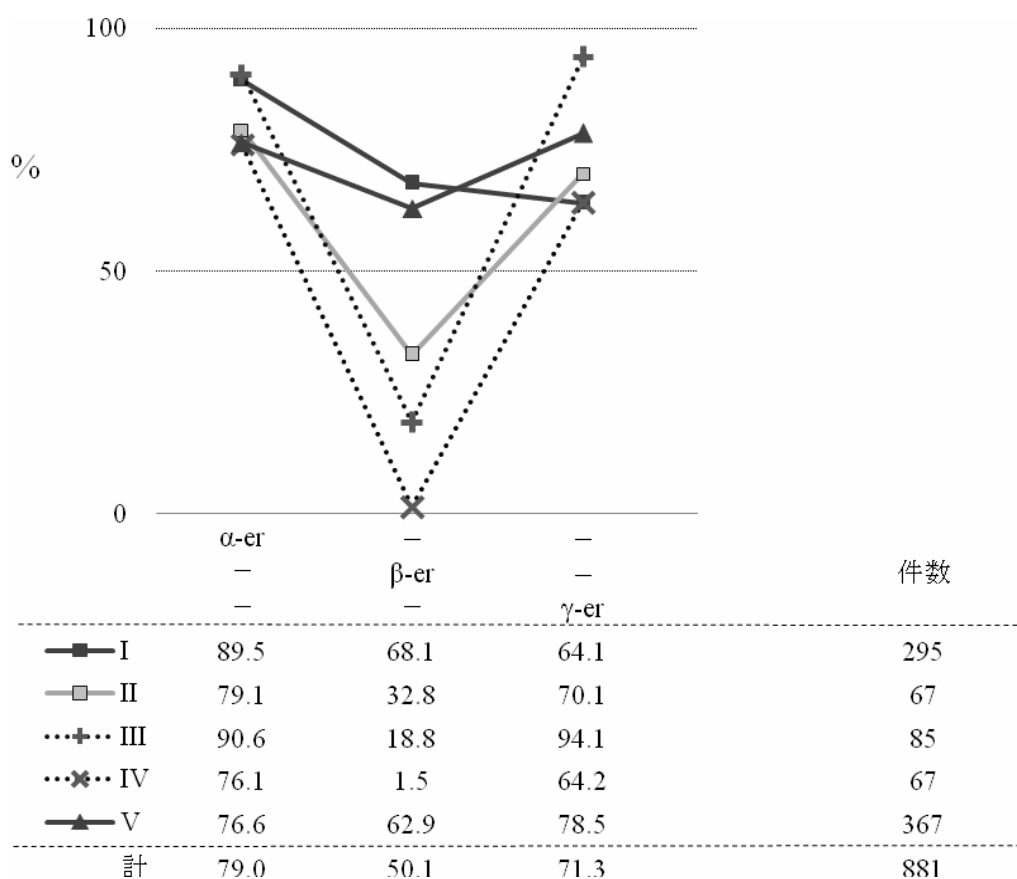
パターン $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は、V 類に限られていたが、V 類内部では少なくなかった（12.8%）。V 類動詞の意味的構成は、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ （make, take, get, keep）は構造的枠（自他、継続性など）を、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ が実質的内容を担当している。これは、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ en-rich $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$, $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ de-bone $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ のような[接頭辞-語基] の関係と相似である。これに応じて、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ 部分が意味的固まりをなす、という解釈へ幾分傾く（ $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ ）。

パターン $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は、合算では劣勢だが、II 類ではいくぶん好まれ（14.9%）、IV 類ではとても好まれていた（35.8%）。両類では、意味的に、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ 部分が一語相当である（II では $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ と $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は合わせて単一の事柄を表し、IV では $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ と $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は同じ事柄を繰り返している。）この意味に応じて、 $\left[\begin{smallmatrix} V \\ ER \end{smallmatrix} \right]$ は臨時に一語として再分析されることがある、と考える。すなわ

ち、II類では、[]が一個の前置詞として([[on to p]])、IV類では、(aloudと同義の)一個の副詞として([read [out loud Adv]]=[read [aloud Adv]]) (read aloud-ERについては、表(6)参照)。ところで、最後の/er/に後続する部分が多い(2語ある)と、V-ER全体が語として読み取りにくい。動詞の5類のうちII・IV類では、上述の再分析がパターン の読みとりにくさを緩和するわけである。加えて、IVにおいては、(read)が、意味的に全体の中で大きな比重を占めるため、/er/を引き付ける力を発揮している。

3つの構成要素 表(13)を、11異形態パターンを/er/の付いている構成要素ごとにまとめると、表(14)になる。例えば、 に/er/が付いた場合は、4パターン だから、その値は4者の値(表(13))を合算して求める。

(14) 3要素のV-ER 3要素 α, β, γ に/er/が付く頻度 (数字は%)



/er/の付きやすさの順は、『 > > 』である。/er/の頻度に関して、この順に、値が大から小へ、また、動詞の5類間での散らばりが小から大へ、並んでいる。

5動詞類のうち、II・III・IV類では、 の値の落ち込みが顕著だ。これは、[]が意味的固まりをなすことを反映している。一方、I類とV類では、 の値は と と比較して目立って低いわけではない。意味的に と が互いに独立であることの反映である。

2.3 いくぶん一語的な前置詞 out of, on to ; いくぶん二語的な前置詞 into

II 類動詞の[]部分は一概に、意味的な固まりをなすが、そのなかでも out of, on to の場合は、一語的な感触がするほど緊密である。また、into は、文字上で一語でありながら、2つの構成要素 on, to からなる。2.3 では、/er/がこれらの中に割り込む様子を点検する。なお、2.3 で言う on to とは、hold, hang, cling (保持の動詞) に後続するそれである。(pass on to (35f)の on to は、明らかに2語であり、この類ではない。pass on to は、表(12)によるなら I 類。)

Out of out of は、正書法によれば、常に分かち書きされその限りでそれぞれ二語だ。しかし、(15)のように、統語的には、分割できないという一語的な性質を示す。(V 類動詞の of と対比。)

(15) * jump out{ even / right }of a plane (語の割り込み) (cf. ^{OK} make fun even of Christ)

* something of which to get out (部分の転移) (cf. ^{OK} something of which to take care)

また、対義語は into だが、これは正書法によれば一語綴りで書かれる。

out of は、上述の一語的な性質にも関わらず、(16)のように、/er/ の割り込みを許す。割り込みは、単に可能というにとどまらず、遠慮されるふしもない。件数の半分以上 (out of 全 23 件のうち、 と で 14 件) を占めていた。(16c)は、複数形である (番号⑧については、(30)参照)。

(16) a. and Ted the Toilet-Drinker-Outer-Ofer ...

【日記、愛犬について】 / drink out of / + /er er er /

b. No, it's not. Nikitta is the official afda cake jumper outer of.

【掲示板、ゲーム?の人物設定。Re:If you were Kaare, would Nikitta jump out of a cake?】

/ jump out of / + / er er /

c. Because the baatezu do it too, and their dead become nupperibos, not ground puller-outer-ofs. "【略】the baatezu don't just spring up like weeds."

【掲示板、ゲームの状況設定】 / pull out of / + ⑧/ er er s /

‘地中からニヨキニヨキ生え出てくる者’

in front of も、out of に並行的だ。統語的に分割できず (* sit in front just of the building ; * . . a store, of which I sat in front) 対義語 behind は一語で書かれる。(17)のように、/er/の割り込みは許す (全 3 件中、 1 件)。

(17) Occupation: computer sitter in fronter of-er

【日記、自己紹介】

/ sit in.front of/ + / er er er /

On to on to に関しては、(18)のように、統語的には、分割が可能だ。

(18) hold on {only /tight}. to the pleasant memories (語の割り込み)

something to which to hold on (部分の転移)

一語的性質は、文字上で見られる。分かち書き on to ~ 一語綴り onto のゆれである。インターネット上の件数は、文においては、分かち書きのほうが多かった(分かち書き：一語綴り の件数比は、約 2 : 1)。V - ER においては、逆に、一語綴りのほうが多かった(___er on toer = : ___er ontoer の件数は、hold 2 : 13、hang 1 : 5、cling 1 : 2。個別選別の該当例 (C) (4))

/er/の割り込みは、例が観察された(例、 holder-onner-to, holder-oner-to-er)。on to (分かち書き) 7 件のうち 4 件。

Into into は、表(11)に載っていない。正書法によれば一語綴りで書かれるからだ。V - ER における/er/に関しては、(19)のように、普通は割り込まない。それでも、(20)のように、割り込んでいる例がわずかに 2 件観察できた。(/ run into / + / er er / : /run in to / + / er er er / の件数は、35 : 1。(C) (4))

(19) I am an expert door-runner-into-er and an expert chair-faller-offer...

【日記、自己紹介】

/ run into / + / er er /

(20) a. 【文前半略】 and he had his head turned sideways and he walked into a pole. she called him a pole-runner-inner-toer

/ run in - to / + / er er er /

【掲示板、学生生活】

b. Only with the help of the new suitcase/ club getter inner toer can a very, very white boy discover the secrets of the mysterious Bling Club.

【投稿ビデオクリップ解説、投稿者による】 / get in - to / + / er er er /

なお、上記の場合と異なり、(21)では、in to 部分が明らかに 2 語である(表(13)によるなら I 類)

(21) a. thanks steve, you blood sucking terrorist giver inner to-er. ##### bullshit.

【掲示板】

/ give in to / + / er er er /

b. I finished it [=an old quest in my log] and went to turn it in, but behold and lo, the quest-turner-inner-to-guy no longer existed. I found that quite lame.

【掲示板、ゲーム】

/ turn in to / + / er er /

=the guy that you can turn in your quest to (前置詞 to の目的語に当たる人物)

2.4 ベースが動詞句

V - ER のベース動詞 V は、構文的大きさに関して、句動詞 (phrasal verb) という語を超えて、動詞句 (VP, verb phrase) という句であることも可能である。また、その種の V - ER においても、句動詞の V - ER においてと並行的に、(22)のように、/er/が複数個 (3 つ、ときに 4 つ) 生起することが可能だ (あるいは、/er/が末尾に 1 個だけでもよい)。(句を語から区別する目印は、例えば、冠詞 the, 代名詞 my, 複数-s。)

- (22) a. And depending on the profit margin, I would definitely hire a night guard/hobo-chaser/messer-with-my-crapper-at-nighter guy. 😊😊

【掲示板、ゲーム】 / mess with.my.craps at.night / + /er er er /

=a guy who messes with my craps at night

- b. One thing I'm mad about right now is: mummery left the computer last night.. runner awayer fromer problemser.

【日記、自己紹介】 / run away from problems / + /er er er er/

mummery= name of a friend of the author's

- c. 【訪問者:】 That's awesome! It's so nice having a boy in the house. Mine does the dishes. I can teach you how to train yours if you'd like!

【管理者:】 Ooooh, yes, tell me how to train him [=my boyfriend]. It is handy having a spider-getter-outer-of-er-the-houser around. 😊

【日記付属の掲示板】 / get out of the.house / + /er er er er /

=someone who gets out spiders out of the house (for you)

/er/が付く個所は、(統語的には)動詞句の直接構成素であることが多いが、それ以外の場所にも現れうる。ただし、/er/のホストは、(音韻的に)強勢を持つことができなければならぬようだ: *the-er, *my-er などの連鎖は見かけられなかった。

3. V - ER - S

第3節では、V - ER - S (動作者名詞の複数形) を取り上げる。3.1 では、2要素の場合は、3.2 で3要素の場合を扱う。3.3 では、/s/が2個現れる(稀な)事例を扱う。

3.1 V - ER - S , 2要素からなる

2要素のV - ER - Sの異形態パターンからなる変異を点検する。3.1.1ではインターネット上で観察した事実を示し、3.1.2ではそれを3つの制約にまとめる。

3.1.1 変異の偏り

2要素のV - ER - Sを pick up - ER - S と run up - ER - S で代表させる。両者の様子をそれぞれ表(23)と(24)に示す。数字は、各パターンの、件数最多のパターン(太字、表下に件数)に対する件数比。件数は、標本選別(B)(4)による。

(23) pick up - ER - S 各パターンの頻度

ER \ S	s -	- s	s s
er -	pickers up 0.092	picker ups 0.012	pickers ups 0.00014
- er	picks upper	pick uppers 0.033	picks uppers
er er	pickers upper	picker uppers 1	pickers uppers 0.0012

(picker uppers : 13,113)

(24) run up - ER - S 各パターンの頻度

ER \ S	s -	- s	s s
er -	runners up 1	runner ups 0.10	runners ups 0.0018
- er	runs upper	run uppers 0.0000014	runs uppers
er er	runners upper	runner uppers 0.000043	runners uppers 0.0000022

(runners up : 12,672,000)

□ 1~0.01 ▨ 0.01未満~0.001 □ 0.001未満 ■ 検出なし

pick up - ER - S (23)では、件数最多のパターンは/er er-s/だった。多種多様な句動詞の大多数に関しても、それらのV - ER - Sはこれに似た模様を呈す。(それらのV - ERについては、表(7)下方の段。)一方、run up - ER - S (24)では、/er /に相当する表現(runner up)が語彙項目化しており、頻用語でもある。

picker up は、beater と並んで、狩猟における一役割の意味で語彙項目化している。picker up - ER - Sの調査(23)では、これに当たる例を手軽に・まとまった分量除外すべく、「beaters」

を除外文字列として組み入れた。これに関してインターネット上の様子を探ると、(25)のように、pickers up の 4 分の 3、picker ups の 2 割が、同一ページに beaters を伴っていた。一方、他の異形態は、beaters と同一ページに現れることがほとんどなかった(二百分の一)。(ゴチック数字は件数。検出例 (A) (4)。)

(25)	a 「左」	b 「左& beaters」	b/a
	pickers up	9,570	7,290
picker ups	336	69	0.21
pick uppers	648	3	0.0046
picker uppers	13,787	63	0.0046

なお、pick up - ER (単数形) の調査(7)では、除外文字列を組み入れていない、picker up は、beater または beaters と同一ページに現れるのは、1 割以内だった。

表(23)と(24)を重ねて、各セルのよいほうの成績を探ると、表(26)になる。この模様は、V - ER - S の異形態の可能性としての広がりを表す。



(26) V - ER - S 可能なパターン

ER \ S	s -	- s	s s
er -	er-s	er s	er-s s
- er	s er	er-s	s er-s
er er	er-s er	er er-s	er-s er-s

3.1.2 制約

V - ER - S に係る制約 表(26)から、英語における/s/と/er/の配列に関して、(27)のような、形態音韻論的な制約3点が抽出できる。

(27) 英語の/s/と/er/の配列に関わる制約

	内容	(強制力の度合い)	表(26)で違反事例
I	/s/は/er-s/よりも右側に、 /er-s/は/er/よりも右に、現れ ず	(必ず)	
II	/s/は1か所にのみ現れる。	(ほとんど必ず 千に一回違反)	
III	/s/は/er/と同じ個所に現れる。	(普通は 十~数十に一回違反)	

これら3制約は、強制力の大きさが異なる。強い方から、『I > II > III』の順だ。

制約Iは厳格に守られる。例えば、pick up - ER - Sとして、picker upsは適格である一方、*picks uppersや*pickers upperは全くダメである。(制約Iは、1要素の場合にも関わる：pick - ER - Sとして、pick-er-sは適格である一方、*pick-s-erは全くダメである。)

制約IIの強制力はIのそれより緩い。/s/の2回生起は、V - ER - S以外の表現においても稀に起こる。例えば、%brothers- in-laws, %Attorneys Generals。

制約Iは、略式には、『/s/は/er/よりも右側に現れる。』と述べてよい。(26)Iの言い回しは、次の点に関して正確を期したものだ。パターン/er-s er-s/は、制約IIを違反している(したがって稀に現れる)のであり、制約Iを違反していない。ところで、同パターンの構成要素に番号を付けて /er₁-s₁ er₂-s₂/ と呼ぶと、/s₁/が/er₂/の左にある。Iの略式の記述は、同パターンを違反と判定する点が不適切である。(なお、(26)Iで、/s/と/er/は、それぞれ単独の/s/と/er/を指し、/er-s/を構成する/s/や/er/を指さないこととする。)

制約IIIは、IIよりもさらに強制力が小さい。制約というより傾向と呼んでよい。IIIの結果、/er-s />/er s/の件数差が生じる(表(23,24,26)の上段)。数点のベース動詞を選んで調査したところ、(28)のように、件数差は、数十~十：1だった。件数は標本選別の該当例(B) ((4))。

(28)	ベース動詞	(a) er s	(b) ers	a/b	
	run up	1,305,600	12,672,000	0.10	= (24)
	pick up	154	1,204	0.13	= (25), beaters 除く
	pass by	54,928	2,530,000	0.022	
	look on	605	22,560	0.027	
	take away	4	134	0.031	
	dine out	11	1,867	0.0056	

文法的位置付け (27)の3制約を、より一般的な文法的文脈の中で位置付けよう。

英語の制約(27)の I と II は、それぞれ、通言語的な原則(29)の I と II が具現化したものだ。

(29) 通言語的な原則

I 屈折接辞 inflectional affix は派生接辞 derivational suffix より外側に現れる。

II 形態論的特徴は語中の 1 か所にのみ実現される。

原則(29)I と II は、ともに言語学では周知の知識で、それぞれに関して研究蓄積は多い。例えば、(28)I の成立理由について代表的な論考は、Bybee 1985。(29)II は、例えば、Ackema and Neeleman の制約 Quantitative Correspondence に相当する (2004:143-144; 2005:310)。

英語の制約(27)III に関しては、英語には、これと並行的な形で述べられる制約がある：『/ness/は/ed/と同じ個所に現れる。(普通は)』 Capelle (to appear :24)は、次のような事実観察を報告している。『fuck up に-ed を付けた形容詞は、標準的には fucked-up だが、稀に fucked-upped が見られる。ただし、後者の分布は、fucked-upped-ness のように、-ness が後続する場合にほとんど限られる。』 fucked-upped-ness という表現は、上述の制約を、-ed の 2 回生起という非常手段で満たした結果だ。

英語で成り立つ並行的な 2 つの制約は、まとめて、III のように述べることができる。

III 複数個の形態論特徴は、語中の 1 か所にまとめて実現される。(普通は)

3.2 V - ER - S , 3 要素からなる

V - ER - S の異形態の広がり、主だった場合 (= 表(26)の白色セル) に関しては、2 制約 I,II ((27)) によって範囲を制限される。(制約 III は強さが傾向程度であって、範囲を絞るまでではない。) 3 要素の V - ER - S の場合、2 制約 I,II をともに満たす異形態パターンは、(30)の 11 である。V - ER - S の 11 パターンと V - ER の 7 パターンを拡張先と拡張元 (表) で対応させて配列し、前者には白抜き数字で番号を振る。まず、/er/が だけに付いているとき () は、 . . . のいずれか一つに付く (①②③)。次に、/er/が付く最後の要素が であるとき (,) は、/s/は か のいずれか一方に付く (④⑤,⑦⑧)。そして、 に/er/が付いているとき (, ,) は、/s/はそこに付く (⑥,⑨,⑩,)。

- (30)
- | | | | | |
|-------------|---|---------------|---|------------|
| ① / er-s | / | ② / er s | / | ③ / er s / |
| ④ / er-s | / | ⑤ / er s / | | |
| ⑥ / er-s / | | | | |
| ⑦ / er er-s | / | ⑧ / er er s / | | |

⑨ / er er-s /

⑩ / er er-s /

/ er er er-s /

以下では、11 パターンからなる変異に関して、インターネット上の事実観察を提示し、それについて説明する。3.2.1 は変異の広がり、3.2.2 は変異の偏りに関する。

3.2.1 変異の広がり

11 異形態パターンの全てに対して、実際に使用例が観察できた。(31)のように、make fun of - ER - S については、11 パターンの例が揃って見つかった。ただし、パターン②の(31b)は、筆者自身も疑念を持ったようで、?印が付けられている。

- (31) a. Uh-oh... she was my Canadian-defense-from-makers-fun-of.
【掲示板、ゲーム】 ①/ er s /
- b. sorry if i'm one of the makers-fun-of (maker-funs-of?)... in real life,
【日記付属の掲示板、訪問者】 ②/ er s /
- c. I think they are gonna be the "ass maker outers" instead of the "asses maker fun ofs"
【掲示板、プロスポーツ】 ③/ er s /
- d. Hey, don't forget, all you WV make-funners-of: They are a Blue State. That makes them better than your state, maybe. 【掲示板】 WV=West Virginia 州 ④/ er-s /
- e. LOL ahahahahaha sparky more brit make funner ofs 【掲示板】 ⑤/ er s /
- f. We're equal opportunity make-fun-ofers here. 【掲示板】 ⑥/ er-s /
- g. Perhaps some of these foul weather driver maker funners of should move back to the Midwest where people enjoy ice skating with their cars. 日記】 ⑦/ er er-s /
- h. NAR NAR HEREBY DECLARES JIHAD ON ALL TOURETTES SYNDROME MAKER-FUNNER-OFS. 【日記】 ⑧/ er er s /
- i. Are you making fun of my eyebrows...
Well, eyebrow maker fun of ers burn in hell so ha! 【日記】 ⑨/ er er-s /
- j. I think the <sw> has outworn its usefulness as a tool to separate the make-funner-ofers from the make-funner-ofees. 【掲示板】 ⑩/ er er-s /
- k. Now, I know this may sound a little strange and/or stupid to most, but this is one of the basics that most Make-er-Fun-er-Of-ers need to and should know. 【日記】
/er er er-s/

make fun of の類の動詞 ((13) の V 類の動詞) 以外から、各パターン (❷ 除く) の例を (32) にあげる。

- (32) a. I know that the use of wikipedia is looked down on, but it may make the lookers-down-upon feel better to know that the citation link above takes you to the BBC style manual.

/ look down upon / + ❶ / er-s /

- b. Archie, the ticket-agent, has encircled me with care-keepers and looker-out-fors:
【単行本： Emily Carr, and Gerta Moray 著、 *Hundreds and Thousands: The Journals of Emily Carr*, 2007, p.105】 / look out for / + ❸ / er s /

- c. all you publishing company idea come-uppers-with, don't even think about stealing this idea.

【日記】 / come up with / + ❹ / er-s /

- d. Oh WOW! Please pass on my nose-hugs to the Lisa-clock-look-outer-fors.

【日記付属の掲示板。訪問者】 / look out for / + ❺ / er s /

Lisa = Lisa Marie Simpson = アニメの登場キャラクター

- e. For fellow Animaritime lovers, supporters and look-forward-to-ers!

【掲示板、管理者による】 / look forward to / + ❻ / er-s /

- f. This award was from that cool Vampire cat Victor!!!! 【略】

So here are my passer onners to!: Parker, 【他 9 名友人の名前略】

【日記】 / pass on to / + ❼ / er er-s /

‘ Vamire cat Victor 君からもらった賞を渡す相手 ’ (前置詞 to の目的語に当たる人)

- g. The Qeng Ho are also experienced civilisation messer-arounder-withs, an old and effectively peak-tech civilisation

【ゲーム、状況設定】 / watch out for / + ❸ / er er s /

- h. Sorry Simon-looker-out-for-ers. 【掲示板】

/ look out for / + ❹ / er er-s /

- i. I am afraid that the new Mechanics are simply parts removers and "put-backer-onners", that is after the computer diagnostic machine tells them what to replace.

【掲示板】 / put back on / + ❿ / er er-s /

j. 【日記：】 Spouse is sleeping on the couch, and Sara is sleeping on her doggie bed.

【1文半略】 this is his normal falling asleep place 【文後半略】

【訪問者：】 Your spouse and my spouse are both couch-faller-asleeper-oners.

/ fall asleep on / + / er er er-s /

3.2.2 変異の偏り

11 異形態パターンの間には、頻度上の偏りが見られた。様子を表(33)に示す。件数は、標本選別(B)(4)による。“異音”的変異(upper, uper, up er など)に関して一括してある(2.1)。例が2件以上見つかったV-ER-Sを表にあげる。

(33) 3要素V-ER-S 11異形態パターンの頻度(数字は件数)

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <div style="text-align: center;">- ER - S</div> <div style="text-align: center;">V</div> </div>			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	計	
α	β	γ	er-s	er s	er s	er-s	er s	er-s	er er-s	er er s	er-s	er er-s	er er-s		
I	come	up	with				6	3	1	1		4		15	
	put	up	with	1		3	4		1	1		1		11	
	keep	up	with							2		1		3	
	hang	out	with				1			1		1		3	
	check	up	on				1			1		1		3	
	look	up	to			1			1					3	
	look	down	upon	1			6							7	
	look	forward	to	1			1	1						3	
	look	out	for				1			1				2	
II	hang	on	to			4								4	
	holde	on	to			1					2			3	
	get	out	of	1			1			2				4	
	run	away	from	1			3			1				5	
III	put	back	on				1					1		2	
IV	read	out	loud	2			6			2				10	
V	get	rid	of			4	1	1	4	2	2	3	2	1	34
	make	fun	of	2	?	1	3	2	9	2	2	4	3	5	34
	take	care	of			1			1	2	1	7		4	16
	take	advantag	of	2			2					4		1	9
	keep	track	of	1		1				1			1	4	
	計			12	1	16	6	4	45	11	8	32	7	33	175

*表(33)のための調査機会には、例(32b)は検出されなかった。?: 例文(31b)。

検索語には「s」も組み込んだ(例、「comer uper with's」「come up with er's」。所有格の例は除外。)

表(33)を、ベース動詞の類ごとにまとめると、表(34)のようである。

(34) 3要素V-ER-S 11異形態パターンの頻度 ベース動詞の類ごと(数字は%)

V \ ER - S	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	計 (件)	
I	6.0		8.0		2.0	40.0	8.0	6.0	14.0		16.0	50
II・III・IV	14.3		17.9			39.3			25.0	3.6		28
V	5.2	1.0	7.2	6.2	3.1	14.4	7.2	5.2	18.6	6.2	25.8	97
I~V 合算	6.9	.6	9.1	3.4	2.3	25.7	6.3	4.6	18.3	4.0	18.9	175

偏りの諸要因 3要素の V - ER - S は、2つの側面において拡張的である（表(5)の矢印）。ある面では、3要素の V - ER (2 . 2) に/s/を添加したものであり、またある面では、2要素の V - ER - S (3.1) に3要素用の解釈 (2.3) を適用したのものである。例えば、パターン⑧ / er er s / は、 / er er / に/s/を加えても出来る（表(5)で太い矢印）し、 / er er-s / を “ /er/が主要部と一つの非主要部に (2.2.2)、 /s/が末尾に ” と解釈しても出来る。下段落では、論述の簡略化のため、前者の側面に考察を限る。

11 パターンのうち、優勢なのは (1 位から順に) ⑥ / er er s /、 / er er er-s /、⑨ / er er er-s / だった。このうち、⑨は、拡張元の V - ER パターン、それぞれ、が優勢であることに呼応している。(ただし、⑥が基づく は中位だ。⑥が最上位に浮上している理由は、不明である。)

稀なのは、(最下位から順に) ② / er s /、④ / er-s /、⑤ / er s /、⑩ / er er-s / だった。④、⑤および⑩については、拡張元の V - ER パターンが劣勢であること呼応している。④、⑤は、最下位の / er / から；⑩は、V 類に限定される / er er / から。②は、最も稀で、これまでに(31b) 1 件しか実例を得ていない。ここでは、拡張元パターン / er / は、優勢でないという程度だから大きな問題ではない。実際、に基づく他のパターン①、③には例がある。②の障害は、/s/が付いている個所に動機付けがないことだ。/s/を引き寄せる動機になる特徴は、主要部 ()、/er/のある個所 ()、末尾 () と3点もあるのに、②で はどれもない。

制約 III 制約 III ((27)) の効果は、2要素の場合には明瞭に (十 ~ 数十対一の件数差として) 観察された (表(28))。しかし、3要素の場合には、認められなかった。次のようである。

まず、 に/s/を添加したパターンは①(35a)と③(35b)である。①は制約 III に従っており、③は違反している。表(36,37)の調査範囲内では、両パターンの件数大小 (① 12 < ③ 16) は、むしろ制約 III の予期させる方向と逆だ。より広範囲を見渡しても、印象的には件数差を感じなかった。

(35) a. I am a pet lover. Their [=there] are pet lovers and their are pet putters up with. And then their are pet haters. 【日記】 / put up with / + ①/ er-s /

b. Sometimes we don't get the credit we deserve for being the crap-putter-up-withs.

【日記付属の掲示板、訪問者】 / put up with / + ③/ er s /

この事実は、制約 III と逆の働きをする別の要因の存在を指し示す。その一つに、文理解に関する配慮が指摘できる。①では、V - ER が単位として了解されにくい。読み手は、主要部に付いた/s/を読みとると一旦そこを V - ER の末尾だと取るが、これを打ち消すには3語先(35a)では And)まで進まなければならない。(35b)で③が選ばれたのは、理解での負担軽減を優先させて、構造的に好まれない特徴を受け入れたのだ、と考えられる。

次に、に/s/を添加したのは⑦と③であるが、⑦は制約 III に従っており、③は違反している。たしかに、両パターンの件数の大小関係(⑦ 11 > ③ 8)は、制約 III の予期させる方向を向いてはいる。しかし、差は、2要素の場合に比べ、格段に小さい。

全般的特徴 異形態パターン変異を全域にわたって見ても、3要素の場合は、2要素の場合と比較して、一概に偏りの度合いがより緩やかである。2要素の場合は、変異が特定の1パターンへ鋭く収束していることが多い。例えば、pick up - ER (表(7))と pick up - ER - S (表(23))では件数最多のパターン(それぞれ/ er er /と/ er er -s /)だけで大部分(全体の約9割)を占める。2位以下は、pick up - ER - S (全4パターン)では、2位/ er -s / 1割弱、3位/ er -s /約3%、4位/ er s /約1%、と急に減る。3要素の場合に関しては、まとまった件数を確保するため V 類の句動詞を一括して点検すると、次のようだ。V 類 - ER (367件、表(13))では件数最多パターン が3分の1、V 類 ER - S (97件、表(34))では同 が4分の1、と少数派にとどまる。反対に、下位のパターンでも、V 類 - ER - S (全11パターン)の7位④、⑩が各6.2%、9位①、③が各5.2%ある。

この対比は、2要素の表現と3要素の表現とで、産出時に経る認知的過程の相違に由来する、と考えられる。次のようにである。

2要素の場合、話者の知識体系内に、V - ER や V - ER - S 用のパターン(例えば、/ er er /, / er /)に対する認知的単位(schema)が定着している。各パターンはどの種類の動詞に付くか、各種類の動詞はどのパターンを取るか、に関しても認識が形成されている。

2要素の例文は日常生活で出くわす可能性があるし、2要素のパターンは構造的にも比較的単純だからである。これらの知識が表現産出時に動員される。結果として、文法的可能性として複数のパターンの中で選択の余地があるものの、使用頻度上はパターン間の明確な差が生ずる。

一方、3要素の場合、それに符合する認知的単位が既成ではない。表現の産出にあたっては、2要素用パターンのあるものから、即興的に(例(1b))ときに迷いながら(例(31b))拡張されてこしらえられる。発話局面ごと変異する要因(その一つに、理解しやすさの配慮)が介入する。つまり、パターン間で優劣を固定化する契機がない。結果、使用頻度上の偏りは緩やかにとどまる。

3要素のV-ERの対極に位置するのが、語彙項目化したV-ERの表現(runner up, passer byなど)だ。後者については、知識体系内に、究極的に特定の認知的単位(個々の語彙項目)が定着している。産出にあたっては、それらが優先的に動員され、より一般的な認知的単位ども(/er er/, /er /などのパターン)が合成的な過程での適用をめざして競合する余地は残らない。語彙的阻止(lexical blocking)である。結果、特定の1パターン(多くの事例では/er /)へ、極めて鋭く(数万~数百対一の件数差で)集中することになる(表(7)の上方の段、表(24))。

3.3 /s/が2回現れる

V-ER Sでは、稀に/s/が2回現れる。つまり、制約(26)IIは、稀に違反される(表(26)の斜線セル)。3.3.1では、その2要素の場合、3.3.2では、3要素の場合を取り上げる。

3.3.1 2要素の場合

パターン/er-s er-s/と/er-s s/は、確かに稀だ。それでも、インターネットほど大規模のコーパスを探索すれば、それぞれ(36)と(37)のような例は珍しくない(McIntyre 2004)。

(36) a. If any of the winners or runners-uppers could share any clues with a PM, I'd be most grateful.

b. My parents have a dog and are poo-pickers-uppers!!!

(37) Congratulations to the winners and runners ups!

非系統的な調査で得た印象によれば、/s/の2回生起が比較的起こりやすいのは、(38)のように、後部要素が比較的長く、したがって2つの/s/の間に距離が確保されるときだ。

(38) a. srtayers at homers

b. the latest goers-to-bedders

c. long talkers on phoners

d. sinning takers-for-granteders ‘神にそむくのを当然と考える人たち’

3.4 /s/ が2回現れる、3要素の場合

3要素の場合、V - ER - S における/s/ 2個出現の例は、インターネット上で探してもなかなか見かけないほど稀である。この状況は、(/s/の個数とは独立に) V - ER - S 全般に関して、3要素が2要素と比較して僅少であるのに呼応している(表(23-25,28): 表(33))。

インターネット検索を手当たり次第に繰り返した結果、(39)のように、3要素で/s/ 2個の V - ER - S は、例が、4パターン、(わずか) 8件観察できた。(i)/ er er-s er-s / (a,b ほか、計4件) (ii)/ er-s er-s / (c ほか、計2件) (iii)/er-s er-s / (d, 1件) (iv)/ er er-s s / (e, 1件)。

(39) a. ...might wanna work in some bot-getter-ridders-of-ers and such

【掲示板、Podcasting Software、質問への回答】 / get rid of / + / er er-s er-s /
=mechanisms which get rid of bots

b. I say they /know/ about the stuff, and are just trying to take advantage of the water.

Water-taker-advantagers-of-...ers... / take advantage of / + / er er-s er-s /
【掲示板、小説評】

=characters in a novel who take advantage of water (a swimming pool as the setting)

c. this [=privacy] was paradise the lost had been seeking, away from the meddlers and watchers and checkers-up-oners. 【掲示板】 / check up on / + / er-s er-s /

d. Speaking of cool animals, did anybody catch the start of that Discovery Channel series Planet Earth. Wowza! Totally Awesome. It's an 11 part series and its in HD for you jonses keepers uppers with. Check it out. For real.

【掲示板】 / keep up with / + / er-s er-s /
=people who keep up with the Jonses

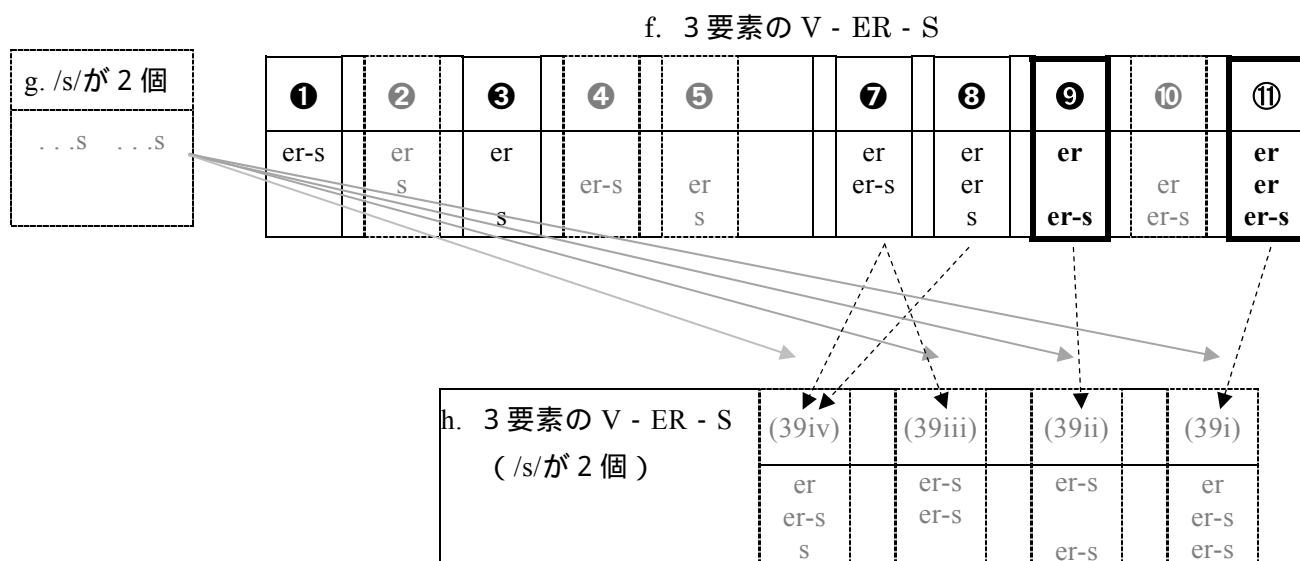
e. we weren't the pointers and maker funners ofs in high school.

【掲示板】 / make fun of / + / er er-s s /

これら4パターンは/s/ 1個の V - ER - S のパターンからの拡張事例である。具体的には、拡張のつながりとして/s/一個の相違に考察範囲を限ると、(40)のようである。4者について想定される拡張元パターンは、比較的優勢な(= 上位から中位の)ものである。例えば、4件得られたパターン(i)は、“優勢な から ” である。1件のパターン(iv)は、“中位の㊦から ”、“中位の㊧から ” という2解釈に支持されている。(なお、この考察範囲では、㊦/ er-s /からは拡張が想定されない。) g.の表示は、(下位区分を問題にせず、) 2要素以上の名詞一般を意図してある。pickers uppers のような V - ER - S だけでなく、brothers-in -laws

なども包括する。

(40)



上記の4パターンのいずれにも、/s/2個に対して、/er/が2個以上ある。制約(27)II 『/s/の個数 1。』を内容的に緩めた(強制力の弱い)制約として、『V - ER - Sにおいて、/s/の個数 /er/の個数。』を想定できる。この制約は、実際に概略『V - ER - Sにおいて、/s/は/er/より複数出現することが少ない』状況が成立しているから、そのことに動機づけられていると見ることができる。

パターン(i)は、サイズに関して句動詞(phrasal verb)を超えて、(41)のように、動詞句(VP)においても観察できた。その他に、(42)のように、動詞句の場合は、3個の/s/も見られた。/s/が複数個現れやすいのは、どちらかと言えば動詞句の場合のようだ((38))。

(41) a. HAHA! Take that all you non- wOOters! and maker funners of meers!

【掲示板】 / make fun of me / + / er er-s er-s /
=people who make fun of me (掲示板参加の遊び仲間)

b. i fall asleep all the time gurl dont feel bad ... lol we will take the tradition with us were the faller asleepers in classers!!! love you gurl!

【日記付属の掲示板、管理者のクラスメート】

=students who fall asleep in class / fall asleep in.class / + / er er-s er-s /

(42) a. KAIT i am reserving you for next weekend

so back off you wanters-to-hang-outers-with-kaiters!

【Kait 氏の日記付属の掲示板、訪問者】

/ want to hang out with Kait / + / er-s er-s er-s /

b. £4 *turners uppers at the doorers*

【酒場、催し物入場料の表】 / turn up at the door / + / er-s er-s er-s /

‘ 会員でなく、予約のない来店客 ’

制約 II を満たすのに実例が得られなかったというパターンもある。それらについては個別に、好まれない理由を指摘できる。例えば、(i) 想定される拡張元パターンが下位 (/ er-s er-s / < ⑩, / er-s s / < ④, ⑤); (ii) (/s/ が 2 個に対して) /er/ が 1 個 (/ er-s s /); (iii) (パターン ② と同様に) 第 2 要素 が単独の /s/ (/ er-s s /, / er s s /)。

制約 I ((27)) に反する場合については、例が観察されなかった。制約 II を満たす (= /s/ が 1 個の) パターンは、例えば、 / * er er-s er /, / * er-s er /。制約 II を満たさない (= /s/ が 2 個の) パターンは、例えば、 / * er s er-s /, / * er-s er s /。

4. まとめ

本稿は、3 要素の動詞をベースにして出来た V - ER と V - ER - S の形に関する変異を取り上げた。インターネット・コーパス調査によって実態を明らかにし、認知的な構造と過程を想定して諸事実を説明した。

3 要素の場合は、V - ER には 7 とおり、V - ER - S (/s/ が 1 個の場合) には 11 とおりの異形態パターンが観察された。これら異形態パターンの間には、頻度的偏りが観察された。この偏りは、拡張元パターンの優劣と、拡張の論理の自然さの差に由来する。3 要素 V - ER - S で /s/ が 2 個の場合に関しては、観察された例がわずかだが、これら例のパターン (4 とおり) は、想定される拡張元パターンが比較的優勢なものだった。

頻度的偏りは、動詞の種類の間にも見られた。動詞の意味的構成を反映した形をなしていた。

3 要素では、2 要素の場合と比較して、頻度上の偏りは緩やかだった。この相違は、2 要素の表現と 3 要素の表現とで、産出が別種の認知的過程をとおして行われることに由来する。

参考文献

- Ackema, Peter , and Ad Neeleman (2004) Beyond morphology. Oxford: Oxford University Press.
Ackema, Peter , and Ad Neeleman (2005) Word-formation in optimality theory. Štekauer and Lieber, eds., pp.285 - 313.

- Blevins, James P. (2006) English inflection and derivation. Bas Aarts, and April McMahon, eds.,
The handbook of English linguistics, pp.507 - 536. Malden, MA: Blackwell.
- Bybee, Joan L. (1985) Morphology: A study of the relation between meaning and form.
Amsterdam: John Benjamins.
- Cappelle, Bert (to appear) Rule-based versus usage-based knowledge of double-upper nouns: A
false opposition?. To appear in: Sascha Michel, and Aleksander Onysko, eds.,
Cognitive approaches to word formation. Berlin; Mouton de Gruyter.
- Chapman, Don (2008) Fixer-uppers and passers-by: Nominalization of verb-particle constructions.
Susan M. Fitzmaurice, and Donka Minkova, eds., Studies in the History of the
English Language IV, p.256 - 299. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Dixon, R.M.W. (2005) A semantic approach to English grammar. Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, George (1987) Woman, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind.
Chicago: The Chicago University Press.
- Langacker Ronald W. (1987) Foundations of Cognitive Grammar: Vol.1, Theoretical prerequisites.
Stanford, CA: Stanford University Press.
- Lieberman, Mark, and Geoffrey K. Pullum (2006) Far from the madding gerund and other
dispatches from language log. Wilsonville, Oregon: William, James & Co.
- McIntyre, Andrew (2004) reduplication in picker-upper. Posted at:
<http://linguistlist.org/issues/15/15-1346.html>
- Štekauer, Pavol, and Rochelle Lieber, eds. (2005) Handbook of word-formation. Dordrecht:
Springer.
- Tuggy, David (2005) Cognitive approach to word-formation. Štekauer and Lieber, eds., pp.233 -
264.
- 荻野綱男(2006)「形容動詞連体形における「な / の」選択について: 田野村氏の結果を WWW
で調べる」『計量国語学』25(7), pp.309-318.

(やまべじゅんじ、ノートルダム清心女子大学文学部)